

“ふじのくに”づくり

の日本の理想郷を創る～

理想郷として目指す姿

「県民幸福度」の最大化

住んでよし 訪れてよし
人々を惹きつけ憧れられる
“ふじのくに”

生んでよし 育ててよし
将来に向けて明るい展望を
描くことのできる“ふじのくに”

学んでよし 働いてよし
自分の生き方を自由に
選択できる“ふじのくに”

取組の視点

- 富士山から導き出される多様な価値に立脚した地域づくり
- 「県民幸福度」の最大化の実現に向けて

静岡県が持つ「場の力」の最大限の活用
世界、アジア、日本国内各地との交流拡大
多様な主体の連携と協働
イノベーション（新結合）による新たな価値の創造
現場主義に基づく発想と実践

計画期間／4年間（平成26年度～平成29年度）

ポスト東京時代の日本の理想郷を創る


明治以降の日本は、東京が中心地であり、「東京時代」と言えます。今、地方分権・地域主権が日本の課題であり、東京を中心にした中央集権体制から、地域が自立して新時代を開く前夜にあります。

日本の国土のシンボル富士山を擁する静岡県が、霊峰から導き出される価値に立脚した地域づくりを進め、ポスト東京時代における国づくりの先導役を担うという気概を持って「ポスト東京時代の日本の理想郷を創る」を基本理念に掲げました。

数値目標（平成29年度の目標値）			
1 「命」を守る危機管理体制の充実			
危機管理	想定される大規模地震による犠牲者	- 8割減少 (平成34年度)	
	大規模災害時に必要不可欠な情報の共有化	- 100%	
2 徳のある人材の育成			
教	「思いやりを持って行動できる有徳の人が増えている」と感じている人の割合	13.1% (平成25年度) ▶ 50%	
	「文・武・芸」のいずれかの分野において自己を磨く努力をしている人の割合	34.5% (平成25年度) ▶ 80%	
育	外国人留学生数	1,217人 (平成25年5月) ▶ 2,500人	
文化・観光	1年間に芸術や文化を鑑賞した人の割合	63.3% (平成24年) ▶ 90%	
	1年間に芸術や文化の活動を行った人の割合	20.2% (平成24年) ▶ 50%	
	富士山に関心のある人の割合	79.6% (平成25年度) ▶ 100%	
	観光交流客数	1億3,808万人 (平成24年度) ▶ 1億6,000万人	
3 豊かさの実現			
全般	静岡県が住みよいと思っている人の割合	60.8% (平成25年度) ▶ 80%	
	1人当たり県民所得	313.5万円 (平成24年度速報値) ▶ 360万円以上	
	食料自給率（生産額ベース）	54% (平成23年度概算値) ▶ 70%	
	合計特殊出生率	1.52 (平成24年) ▶ 2	
経済・産業	人口の社会移動	△6,892人 (平成25年) ▶ △1,000人以下	
	県内総生産（名目）	15兆8,065億円 (平成24年度速報値) ▶ 18兆円以上	
	「食」関連産業の県内生産額・販売額	4兆3,855億円 (平成23年度推計値) ▶ 5兆円以上	
	年間有効求人倍率	0.79倍 (平成24年度) ▶ 1.2倍以上	
暮らし・環境	環境保全活動を実践している県民の割合	72.0% (平成25年度) ▶ 100%	
	自分が住んでいる地域の景観を誇りに思う県民の割合	73.1% (平成25年度) ▶ 80%	
	「自分の住んでいるまちが子どもを生み、育てやすいところ」と感じている人の割合	57.2% (平成25年度) ▶ 80%	
健康・福祉	自立高齢者の割合	85.1% (平成23年度) ▶ 90%	
	自立し社会参加していると感じている障害のある人の割合	45.4% (平成24年度) ▶ 70%	
	4 自立の実現		
交通	中心都市等への30分行動圏人口カバー率	93.2% (平成24年度) ▶ 93.9%	
基盤	日ごろ生活を営んでいる範囲において、都市機能が充足していると感じている人の割合	51.8% (平成25年度) ▶ 60%	
防犯	刑法犯認知件数	32,396件 (平成24年) ▶ 27,000件以下	
	交通（人身）事故の年間発生件数	36,946件 (平成24年) ▶ 33,000件以下の定着	
行政経営	財政健全化の状況	経常収支比率	94.2% (平成24年度) ▶ 90%以下
		実質公債費比率	15.0% (平成24年度末) ▶ 18%未満
		県自らがコントロールできる通常債の残高	1兆8,248億円 (平成24年度末) ▶ 上限2兆円程度
		将来負担比率	241.1% (平成24年度末) ▶ 400%未満
	県から市町への権限移譲対象法律数	日本一（124） (平成25年4月) ▶ 日本一	
行政透明度	日本一 (平成23年度) ※ ▶ 日本一		

静岡県企画広報部企画課
〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL 054-221-2184 県ホームページ <http://www.pref.shizuoka.jp/>
後期アクションプランの詳しい内容（全文）は県民サービスセンター、県総合庁舎で閲覧できるほか、県ホームページで閲覧いただけます。

※参考値：全国市民オンブズマン情報公開度調査結果による



静岡県総合計画 富国有徳の理想郷 “ふじのくに”のグランドデザイン 後期アクションプラン



静岡県

富国有徳の理想郷

～ポスト東京時代

県政運営の基本理念

日本の国土のシンボルであり、世界の宝である富士山を擁する静岡県は、県政運営の基本理念として、「富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくり」を掲げ、まずは全てに優先される「命」を守る危機管理体制の充実」に取り組み、「徳のある、豊かで、自立した」地域づくりを進めていきます。

<富国有徳>
豊かさの集積を「富」、廉直なことを堅持する者のことを「土」とすれば、両者を兼ね備えたものが富士であり、富士山は、「豊かにかつ廉直に生きること」を示唆します。「富国有徳」とは、徳のある人が、物心ともに豊かに暮らす、ヒトとモノとともに大切に作る国や地域を実現しようとする考え方で。



“ふじのくに”
「富士」物の豊かさ心豊かさ
「不尽」尽きることのない価値の源泉 「ふじ」が持つ多様な意味を込めて
「不死」不老長寿のシンボル 平仮名で“ふじのくに”と表しました。
「福慈」幸せ、やさしい思いやり
「不二」唯一、オンリーワン

“ふじのくに”づくりの総仕上げに向けた8つの重点取組

“ふじのくに”が目指す「県民幸福度」の最大化に向けて、総力を挙げて重点的に取り組みます。



“ふじのくに”づくりの戦略体系

「『命』を守る危機管理体制の充実」「徳のある、豊かで、自立した」地域づくりの道筋



地域づくりの基本方向

5つの地域圏が相互に機能を分担・補完、連携し、県全体として、多様な地域性が調和する特色ある魅力を備えた「富国徳の理想郷“ふじのくに”」を形成します。

